

小火・火災予防の取り組み事例

事例：共通評価シート&クロスチェック手法を用いた小火・火災予防低減活動

1. 実施の背景

- ①社内に存在する防火評価シートの内容が乏しかった。
- ②現場チェックの際、必ずしも専門知識を有した者がいない場合がある。
- ③他職場との交流の機会がなく、自職場の維持管理レベル度が分からない。

<想定されるリスク>

- ①② → 職場間で維持管理レベルのバラツキが発生する
- ③ → 不具合箇所・潜在的なリスクの見落としが発生する

2. 情報を一元化した共通評価シート策定

保険サーベイ、消防立入指摘、火災事例、専門知識を有した者の知見等を集約・統合・整理することで、評価項目を充実させた共通評価シートを策定。管理者の異動があった場合も漏れなく評価できるようにした。

評価シート① 事業所としての防火管理

- 性能的要求事項の確認（防火管理体制など）
- 仕様要求事項の確認
（火気使用時の防火管理、電気機器使用時、
化学物質取扱時、建物改修時、新規設備導入時、
排気設備の設置・点検、喫煙に起因する火災の予防方法など）
- 特に注意すべき作業
（高圧ガス、溶接、粉塵、水蒸気爆発、油圧設備、ボイラー、電気設備など）

評価シート② 危険物施設の維持管理

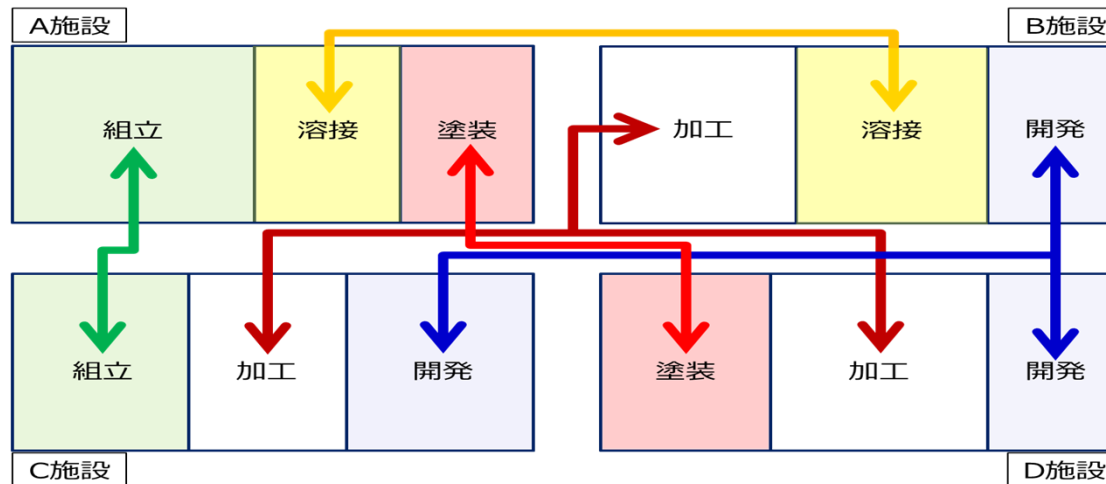
- 保安管理体制
- 点検
- 維持管理
- 貯蔵・取扱作業の管理
- 災害その他の非常の場合の対応
- 啓蒙活動や記録の保管

3. 自主評価&クロスチェック



専門知識を有した者同士、部門を跨いだ類似施設の**クロスチェック**を行うことで以下に繋げる。

- 自部門の「弱み」、「強み」把握
- 新たな課題や気づきの発掘
- 対策の優先順位把握



監査とは異なるため、同じ立場の担当者同士の活発な意見・情報交換も可能になる。

4. 維持管理状況の改善

クロスチェックを行うことで 他職場の好事例を学ぶと共に、自職場だけでは気づかなかった要改善点への対策を実施

良い取り組み事例



ボンディング対策



試験室内供給エア遮断

指摘事例



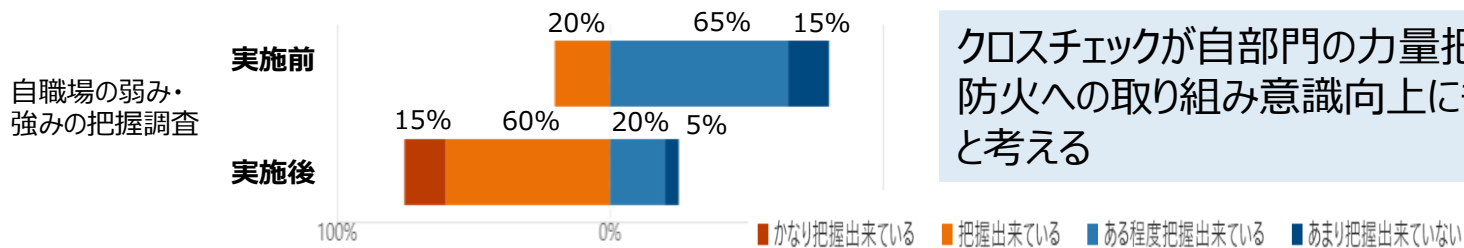
可燃性蒸気が滞留する可能性のある場所への点火源（火花の発生する工具、閉じ込め防止用）の設置

「新たな課題」、「気づき」を
自部門に持ち帰り横展開/改善

- ✓ 自職場の維持管理レベル度自覚
- ✓ 部門バラツキの改善
- ✓ 類似火災リスク最小化

重大火災
「ゼロ」継続

5. 力量把握による取り組み意識向上



クロスチェックが自部門の力量把握、結果
防火への取り組み意識向上にもつながると考える